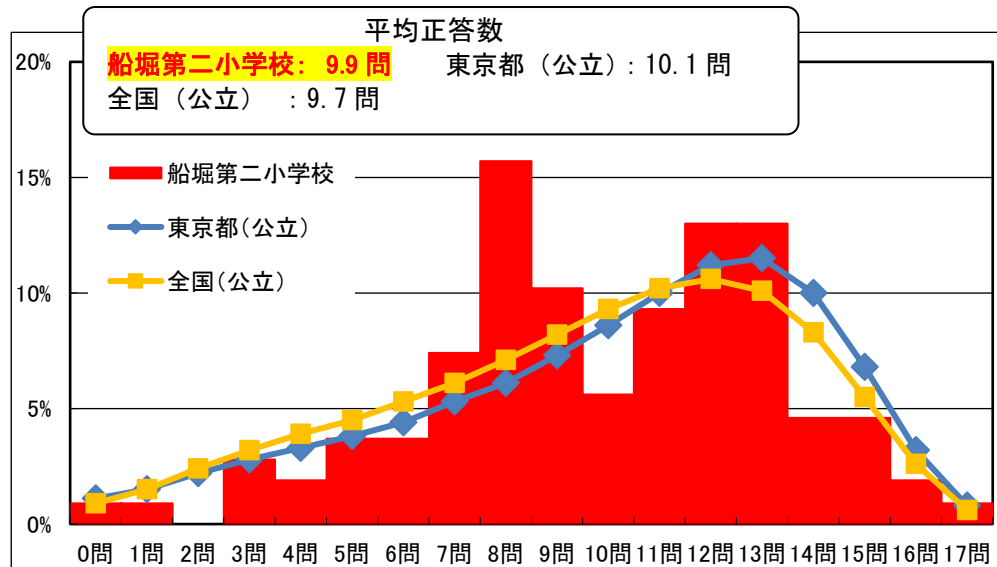


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【理科】 船堀第二小学校

正 答 数 分 布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算 数	上位		下位	
	A層 13～17 問	B層 11～12 問	C層 8～10 問	D層 0～7 問
船堀第二小学校	25.0	22.3	31.5	21.3
東京都 (公立)	32.3	21.2	22.0	24.4
全国 (公立)	27.1	20.8	24.6	27.8

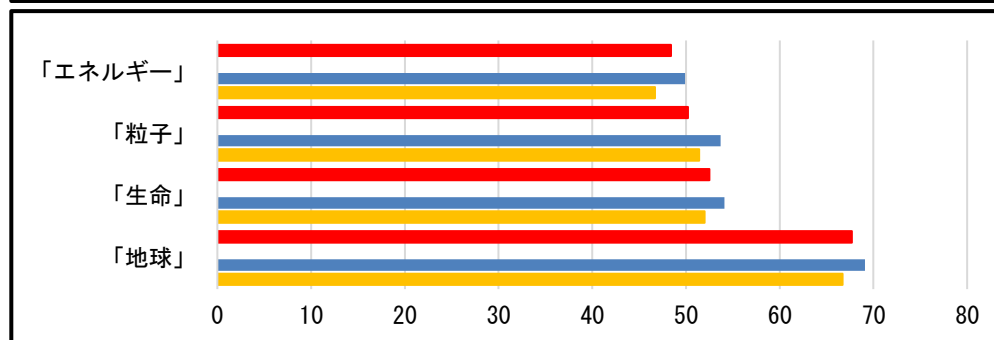
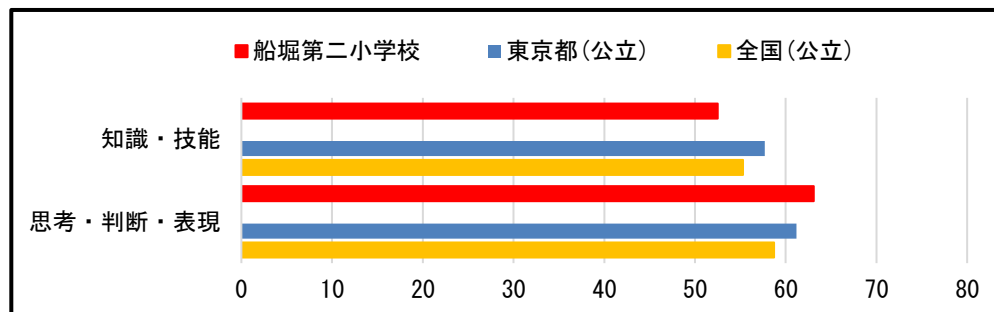
【平均正答率の差】

船堀第二小学校	58%
東京都 (公立)	60%
全国 (公立)	57.1%
都との差	-2 ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

正答率が低かったのは、A区分の「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域であった。

「エネルギー」を柱とする領域では、2 (1)「身の回りの金属について電気を通す物、磁石に引き付けられるものがあることの知識が身に付いているかどうか」2 (3)「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いているかどうか」をみる問題で、正答率が低い結果となった。電磁石の磁力を高める2つの条件について、正しい知識が身に付いていないことが分かった。

「粒子」を柱とする領域では、「水の温度や体積、状態が変化する知識を基に、概念的に理解しているかどうか」を見る問題で、4 (2) イウ、4 (2) エオ、4 (3) カ、4 (3) クの4つの問題で正答率が低かった。これらは、事象について正しく説明する文を選んだり、書いたりする設問であったことから、概念的に捉えることや、知識を活用して説明することに課題があるといえる。

これらの課題を解決するためには、一つ一つの知識を覚えるだけでなく、仮説や考察で活用しながら説明したり、結論の導出を通して概念的に捉えたりできるようにする指導改善が必要である。科学的な問題解決の過程を身に付けるための系統的な指導の上に、多面的に関われている問題を解いたり、様々なアウトプットの様態で知識を整理できるように指導を工夫する。